

「影響を受けるものから与えるものへ」

～ウィルスバスターを入れていますか？～

マタイ7：13～27

■ ゲーテの言葉より

先週も語られましたがイエス様が周りにいる人たちをこのように見ていました。「彼らが当然そうあるべきように人々を扱いなさい。そうすれば、あなたは、彼らがそうあるべきものになるのを助けることになるだろう」ということです。聖書にはイエス様はペテロ、姦淫の現場で捕えられた女、サマリアの女、パリサイ人たち…すべては彼らの将来の姿を見て接していました。ですからそれに至らない問題を取り除くことが目的でした。私たちは今しか見ることができなくなってしまいました。しかし私たちはイエス様を通してすなわち信仰によって周りの人を見る時、その人の将来を信じて進むことができるのです。

■ 切れる包丁とは

普段使っている包丁ですが良く切れるために工夫がされているので良い切れ味が長く続いていると思います。ではただの金属を伸ばしただけで切れるようになるのでしょうか。実は包丁が切れるためには「焼き」が必要だったのです。いくら研いでもこの焼きが入っていないと切れない包丁になってしまうのです。それは焼きを入れることによって不純物が取れ、金属の分子レベルでしっかりと結び合わされるからなのです。

■ 今日のテキストより (マタイ7：13～27)

天国に入るためにどのような信仰生活を送るべきなのか記した有名な箇所です。ここでは①狭い門から入りなさい。②偽預言者たちに気をつけなさい。偽預言者として近づいてくるのであれば、警戒し、従うことにはないと思います。しかし彼らは巧妙です。あたかも正しい言葉のように忍び寄り、残していくのです。それは日常的に交わされる会話の中にも潜んでいるかもしれません。ですから私たちは実を見て判断しなさいと言われているのです。③「主よ、主よ」というものが神の国に入るのではない。その言葉を実践するものが入れるのだということです。そして私たちは自分が「どのようなべき」なのかを知っているでしょうか。これがなければ右往左往する歩みになってしまいます。神様は私たちがあるべき姿に戻って行くことを求めています。それは私たちを通して多くの実を結んでいくようになるからです。私たちが完璧に創造された存在です。実を結ぶことができるのです。それは私たちが神様からの言葉をしっかりと聞いて行う必要があります。私たちが悪くさせようと働いている力があります。その声に聞いて行うと私たちが悪い実を結ぶ行動につながってしまいます。羊は飼い主の声を聞き分けられると聖書に書いてあります。私たちは聖書の言葉に従う者になりたいと思います。

■ 影響を受けるものから与えるものへ

～ウィルスバスターを入れていますか？～

昨今パソコンが普及し、インターネットも浸透してきました。しかし危険性も増し加わりました。パソコンを守るためにセキュリティ対策ソフトを導入しないといけなくなりました。いわゆるウィルスバスターとよばれているものです。パソコンがウィルスに侵されてしまうと本来の能力を発揮することができないばかりか、指示していない周りと自分に害を与えることを勝手にするようになってしまいます。これは人にもたとえることができます。まず、私たちが間違った情報(ウィルス)によって神様が造った姿ではなくなくなっていきます(ウィルスに侵された状態)。そして周りに悪い影響を与えるもの(パソコンが悪意ある他人によって操作されたり、情報を盗み出されたり)になっていくのです。これは私たちが怒ってしまったり、感情的になったり、落ち込んだり、不安、恐れ…によって様々な行動にでてしまうことにたとえることができます。また、パソコンがいつもと違う動きをしていたら、原因を調べ対策をとるものです。私たちは教会にきて、神様からのメッセージを聞いて本来の姿とは違っている部分を少しずつでも良いから元に戻ろうとしています。これが影響を与えるものへと変わっていくことにつながります。しかしそれを認めないという状態が影響を受けるものなのです。私たちが本来聞くべき言葉を聞かず、聞いてはならない言葉に耳を傾け、するべきことができず、してはならないことをしてしまうことはないでしょうか。そのために神様は私たちに御言葉を残しました。もう一度その言葉に戻りたいと思います。

■ 純粋とは

「神のことは、すべて純粋。神は振り頼む者の盾。(箴言30：5)」純粋と①はまじりけのないこと。②邪念や私欲がないこと。③いぢずに行うことなどがあります。ヘブル語では「精錬する。ためす」という意味があります。純粋とは精錬することなのです。包丁のたとえでも話しましたが鉄を精錬する意味は不純物を取り除き、純度を上げていくためなのです。そして焼きを入れ精錬しつづけていくと、強い鉄に変わっていくのです。神の言葉によって生きていこうとする時、それは私たちの生き方が精錬され、純度がまじりていくことにつながります。そうすると今まで影響を受けていた事柄に対しても影響を受けなく

なっていくのです。そして段々と影響を与える人になっていくことができるのです。それが狭い門から入り続ける生き方なのです。だからこそ、私たちは今置かれている環境に逃げてはいけません。また偽預言者の言葉に負けてはいけません。私たちは精錬されて影響を与える人になっていきましょう。

■ ①偽りの言葉を聞かない (実)

「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる(マタイ4：4)」にあるように私たちは誰の言葉によって生きているのかを聞き分けていかなければいけません。「鼻で息をする人間をたよりにするな(イザヤ2：20)」と書いてあります。今日、私たちは決断したいと思います。人からの言葉に影響を受けない!ということなのです。しかし私たちは周りに人々に対して、良い影響のある言葉を語らなければなりません。影響ある言葉というのは人の言動を変えていきます。私たちが語ったことで相手が何も影響を受けなかった、すなわち変化しなかったことがあったのであれば、それは相手との関係でまだ改善するべきところがあるということなのです。その原因が何であるのかを見極めないといいけません。相手にとってベストな言葉を相手の立場にたって伝えていきましょう。それは実で判断することができます。良い実がなければ良い影響を与えていることになるのです。それは厳しい言葉であっても将来と希望を与えるのです。反対に偽りの言葉は絶望、あきらめ、怒り…を与えていくのです。それでは言葉を語る意味がありません。私たちは良い実を残す言葉をかけていきましょう。

■ ②狭い門から!!

「らくだが針の穴を通るように」と聖書に書かれています。針の穴とはイスラエルの城壁の中に入るための門の名前です。らくだが通るには膝をかかめて入っていました。このように狭い門から入るには私たちが神様の前に膝をかかめてへりくだらなければいけません。反対に広い門から入る人は多くいますが、最終的に行くところは滅びなのです。狭い門から入る道とは自分と向き合い、今までの価値観を捨てて、聖書の価値観で生きていくのです。それは敵をも愛する道であり、憎しみを捨てて愛する道であり、いつまでもあきらめない道…ほかにあると思いますがこれらのことを行っていく道なのです。私たちは喜ぶ者と一緒に喜ぶのです。そのために嫉妬を捨てる必要があるかもしれません。この道はいのちに至る道であるとイエス様が先に歩まれました。だから私たちも狭い門から入っていきましょう。

■ ③神の言葉に生きる

御言葉の上に家を建てる人は賢い人であると聖書は伝えています。私たちは何の上に建てられているでしょうか。私たちは一人ひとり石かもしれませんが、集まれば岩盤のようになります。そうすれば、私たちは互いに支え合いながら家を守ることができるのです。私たちは神様からの言葉を守らなければなりません。そして行っていきましょう。私たちは行わないで不平不満を言うのではなく、行う者になる必要があるのです。私たちは神様の前に従順なものにならないべきではありません。私たちに収穫する実を用意して下さっているのです。

まとめ